

令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	地域コミュニケーションシステム構築事業
事業主体 (連絡先)	佐久市 総務部 危機管理課 (0267-62-3008)
事業区分	地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	6,600,000 円 (うち支援金 : 5,000,000 円)

事業内容

核家族化や少子化などにより希薄化する地域コミュニティの課題解決のため、地域をつなぐコミュニケーションツールとしての音声アプリを活用し、地域コミュニケーションシステムを構築する

本システムでは、大きく以下の3つの機能を有する。

- ①市の情報ポータル
- ②防災行政無線の補完
- ③地域をつなぐコミュニケーションツール

事業効果

本事業の目的は、本システムの導入により、行政－住民間や住民－住民間の情報共有を図ることで、希薄化する地域コミュニティの活性化を目指すとともに、地域防災力の向上を高めるものである。

そのため、「地域コミュニケーションシステムを構築する」という本事業の効果を数値で表すことは難しいが、構築したシステムを最大限活用することにより、地域の活性化や地域防災力の向上といった事業目的の達成を図っていく。

今後の取り組み

広報紙などにより周知を図るほか、市民活動サポートセンターと連携し、システムの利用促進を図る。



【完成したシステム】

【目標・ねらい】

- ①地域コミュニティの活性化
- ②地域防災力の向上

※自己評価 【A】

【理由】

・防災行政無線の内容を音声で聞けるだけでなく、ライブカメラ映像や防災マップの掲載など、災害時にもより使いやすい機能を搭載できた。

令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	南相木村 PR キャラクター「カフェバスのちよっくらさん」の活用による村の魅力UP事業!
事業主体 (連絡先)	南相木村 南佐久郡南相木村 3525 番地 1
事業区分	(1)地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	2,184,725 円 (うち支援金: 1,495,000 円)

事業内容

本村の PR キャラクターである「カフェバスのちよっくらさん」を活用し、キャラクターと村のイメージを結びつけることにより、村の PR と浸透を図るため、3つの事業を実施。

①村営バスラッピング事業

- 既存の村営バスに村内外から公募した PR キャラクターのデザインをラッピング。
デザイン募集 7月 ラッピング実施 10月

②スタンプラリー設置事業

- キャラクターを活用したスタンプラリーを村内の観光施設等で実施 (9月~11月)

③着ぐるみ作成事業

- キャラクターの着ぐるみを作成し、村の行事の際に着用

7月1日~8月31日 着ぐるみ製作

小学校、保育所の運動会や CM 大賞などで披露

事業効果

①事業の実施により、村民に対しては、キャラクターを身近に感じられるようになり、村内では、キャラクターと村のイメージが結びつき、浸透した。しかし、新型コロナウイルス感染拡大により首都圏等への PR が不十分だったため、村外へのイメージの結びつきと浸透とまではいかなかった。

②新型コロナウイルス感染拡大により、大幅に利用者数が減少していたが、感染拡大が一時的に収まった期間においては、利用者数が回復し、全体としてもわずかな利用者数の減少にとどめることができた。

③子ども世代を中心に、村民がキャラクターを認知し、愛着を持ってくれた。



【スタンプラリーの様子】

【目標・ねらい】

- ①キャラクターと村のイメージの結びつけによる村の PR と浸透
- ②村内観光施設の利用者増加
- ③キャラクターをとおして村民が村への愛着を深めること

※自己評価 【 C 】

【理由】

村民がキャラクターを認知し、愛着を持ってくれたが、コロナ禍ということもあり村外への認知はまだまだ少ない。

今後の取り組み

今年度実施した事業により、村民がキャラクターを認知し、愛着を持ってくれたが、コロナ禍ということもあり村外への認知はまだまだ少ない。そこで、コロナなどの感染症拡大でも影響が少ない SNS や現在進めているフリー素材などで活用して村内外問わず、多くの人に利用してもらうことにより周知していく方法などに展開していきたい。

そして PR 動画「カフェバスのちよっくらさん」を多くの方が閲覧しているという観点から動画による PR も充実させていきたい。

令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	東信州中山道の魅力を発信するブランド確立事業
事業主体 (連絡先)	東信州中山道連絡協議会 (軽井沢町商工会内 TEL0267-45-5307)
事業区分	(6) ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	722,940 円 (うち支援金 : 578,000 円)

事業内容

1 本年度は、平成30年度作成のウォーキングマップ「東信州中山道を歩く」(日本語版)に隣接地区にある宿場(坂本宿、下諏訪宿)を加えて改訂版を10,000部作成した。

観光案内所、構成団体である市町観光関連施設、商工団体、観光協会へ配布したほか、あわせて、構成団体の各地域にある宿場ガイドを行う団体、さらに東信州中山道に隣接する坂本宿、下諏訪宿、他県内中山道街道に配布したことで、東信州中山道街道歩きの魅力を連携して広域的に発信することができた。



【ウォーキングマップ
「東信州中山道を歩く」】

事業効果

新型コロナウイルス感染症により、国内旅行への需要が多くなることを見据え、広域的に配布を行い、観光客、来訪客に積極的にPRを行い東信州中山道の魅力を伝えることができた。宿場ガイドが観光客に宿場案内、中山道の歴史案内で本マップを配布し、観光客に対し本マップを活用した案内をしていただき、東信州中山道の魅力を伝え理解を深めてもらうことが可能となった。

また、隣接する群馬県坂本宿、下諏訪宿、他県内中山道街道へ配布を行うことができ、少人数で楽しみ、青空の下、密になりにくい、東信州中山道街道歩きの魅力を広域的に発信することができ、今後、誘客に大きく貢献することが期待できる。

【目標・ねらい】

- ①行政、民間の各種団体の連携による国内誘客促進
- ②広域的な連携による観光資源の魅力発信
- ③東信州中山道のブランド確立

※自己評価【B】

【理由】

日本語版のウォーキングマップの作成及び広域的な配布ができたので魅力発信に繋がったが、広域的な連携に深くつなげることができなかった。

今後の取り組み

今後は新型コロナウイルス感染症拡大の状況によりマイクロツーリズムの需要により、国内旅行で比較的近隣へ観光に出かける需要は益々増加すると考え、このことから野外で感染リスクの低い中山道街道歩きはとて魅力があるツールとなることが予測される。しかしながら、東信州中山道はまだ知名度が低いいため、広域的に東信州中山道以外の中山道沿線の団体とも連携を引き続き図り、また、地元ガイドの育成を積極的に行いながら魅力の発信する必要がある。

令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	佐久地域医歯薬かかりつけハンドブック作成事業
事業主体 (連絡先)	一般社団法人佐久医師会 佐久医師会館(1階事務所) 佐久市原 569-7
事業区分	(2) 保健、医療、福祉の充実に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	8,000,000円(うち支援金:5,000,000円)

↓冊子 B5 版カラー156頁

事業内容

平成27年に作成した「かかりつけ医ハンドブック」のリニューアルが望まれ作成された継続事業の2回目。

佐久地域住民に日頃から医療について気軽に相談できる「かかりつけ」を持ってもらえるように、「佐久地域かかりつけ(医・歯・薬)ハンドブック」(冊子156ページ)を作成し、佐久市及び南佐久郡町村へ全戸配布をした。内容は「かかりつけ」の意義や選び方のアドバイス、地域医療機関の基本情報や健康に関する行政の相談窓口の紹介、長野県ACEプロジェクトについて、その他医療関係のコラム・お知らせなどを掲載し、患者や家族が知っておきたい基礎知識を提供することで、安心な地域づくりに貢献する。

事業効果

「かかりつけ」を持つ意義を解りやすく説明し、佐久地域の病院、診療所、歯科、薬局の医療機関の基本的な情報や、医療の特徴を示すことができた。

「かかりつけ」を持ち、適正な医療の選択をすることで医療の効率化と患者の負担を減らすきっかけとなった。

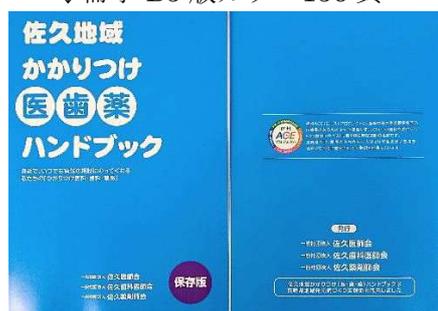
患者や家族が知っておきたい地域の医療機関、基礎知識を提供することで、これからの地域医療のあり方を考えるきっかけとなった。

健康への関心やこれについての県や地域の取り組みについての紹介をはじめ、健康・医療について地域住民にとっての有益な情報冊子となった。

今後の取り組み

今回の冊子をきっかけに、「かかりつけ」を探すきっかけになっただけでなく、高齢社会が進む中で健康寿命を延ばし、地域医療のあり方を考え直すきっかけにしていきたい。

掲載された情報を基に、患者が自分に合った医療選択も可能となるほか、医療機関同士の連携、さらに行政機関と医療機関と患者を結びつけるきっかけとなれば、医療の効率化や「医療、保健、福祉の充実」に役立つことが期待されるし、また、そのように力を尽くしていきたい。



【目標・ねらい】

- ①地域住民に「かかりつけ」の役割は何かを理解し、活用してもらう。
- ②地域の医療機関と医療システムの概要を紹介する。
- ③健康・医療についてのコラムにより健康についての啓蒙を行う。
- ④地域の健康相談窓口の紹介や信州

※自己評価【A】

【理由】この冊子について、佐久地域内外の住民からの問合せもあり、関心の高さがうかがえる。また、これらの問合せ等(医療機関、医療情報)についての要求に応えることができた。継続事業の2回目となり前回よりさらに充実した内容となった。全戸配布をすることで、情報機器を持たない者にも新しい医療情報を提供できた。

令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	2020年度 佐久大学発「足の健康サポーター」養成事業
事業主体 (連絡先)	学校法人佐久学園 佐久市岩村田2384 電話 0267-68-6680 代表 理事長 盛岡 正博
事業区分	402 ライフステージに応じた健康づくり支援
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,779,172 円 (うち支援金: 1,423,000 円)

事業内容

オンライン公開講座「足から元気に、足育健康体操」

第1段階は、足の健康について(基本編・座学)とし、靴の選び方・履き方、爪切りといった誰もが生活習慣として身につけることが可能なセルフケア内容とした。第2段階は、身体の動かし方(実践編)とし、上半身、肩こり解消体操、足ゆびの運動体操とし、足の健康維持に向けたセルフケア内容とした。



【佐久大学オンライン公開講座】

事業効果

- ①オンライン公開講座の動画を佐久大学ホームページに掲載する。
動画撮影はコロナ禍の影響により1月に実施。編集作業を経て2月中旬には佐久大学ホームページに掲載できた。
- ②オンライン公開講座の動画を地域住民へ周知し、視聴した受講者へ感想を確認する。
事業終了後の佐久市民の日においてイオンモール佐久平店に訪れていた方へリーフレットを用いて動画周知を行った。受講者へ感想を聞いたところ、「わかりやすい内容であった」「靴の履き方が理解できた」という感想が聞かれた。

【目標・ねらい】

- ①オンライン公開講座の動画を佐久大学ホームページに掲載する。
- ②オンライン公開講座の動画を地域住民へ周知し、視聴した受講者へ感想を確認する。

※自己評価【 B 】

【理由】

コロナ禍の影響により動画撮影等に支障をきたしたが、予定通りの効果は得られた。今後、地域住民のニーズにこたえられるよう、新たな取り組みを模索していきたい。

今後の取り組み

コロナ禍の影響により動画撮影等に支障をきたしたが、予定通りの効果は得られた。今後、地域住民のニーズにこたえられるよう、また、コロナ禍の影響に負けない新たな取り組みを模索していきたい。

令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ボディスパイダー等を活用した地域の人材育成事業
事業主体 (連絡先)	社会福祉法人御代田町社会福祉協議会 TEL:0267 - 32 - 1100/FAX : 0267 - 32 - 1111
事業区分	保健、医療、福祉の充実にに関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	2,333,854 円 (うち支援金 : 1,751,000 円)

事業内容

御代田町地域福祉センター「ハートピアみよた」内の一室(プレイルーム)を地域に開放するとともに、ゴムロープを使用した総合体力・筋力トレーニングマシン「ボディスパイダー」等を活用した健康教室(10回)を実施し、自身の身体的な機能向上による効果測定を行うための体力測定の実施。また管理栄養士による、健康教室参加者の一人ひとりの食事について分析を行い、栄養バランスやカロリー計算を行い、参加者へのフィードバックを行った。

こうした健康教室の実施については、個々の身体機能の維持及び向上のみならず、精神的な健康及び社会的な健康の重要性を学ぶ、THE・団塊(座談会)を2回実施しました。

事業効果

①身体的な機能向上

教室に参加された多くの方々が教室終了時の体力測定の数値が向上し、自身の身体的な状況の変化を実感した。

②健康について多角的に捉える

2回のTHE・団塊(座談会)を実施し、「健康」という概念には身体的、精神的、社会的な良好(健康)な状況を作り出すことが重要であることを認識。

③地域の人材育成

今後の地域づくりには人材育成が重要となるため、地域住民との交流の機会を持つことができた。

④協働していくためのきっかけづくり

ハートピアみよた内「プレイルーム」でのボディスパイダー等を活用については利用価値があり、他の団体との協働についてのヒントが得られた。

今後の取り組み

健康教室に参加された方々については、体力測定の数値や身体的な変化などが実感され、健康教室の一定の評価を得られましたが、さらなる意識の変化から行動変容に繋げるため、フォローアップの教室実施と新たな人材を育成するための健康教室についても継続して実施していきたい。また、今後もハートピアみよた内「プレイルーム」を開放し、ボディスパイダー等の運動器具を活用しながら、交流を生み出していくため、周知を図るとともに他の団体との協働についても模索していく。



【ボディスパイダーを活用した健康教室】

【目標・ねらい】

- ①身体的な機能向上
- ②健康について多角的に捉える
- ③地域の人材育成
- ④協働していくためのきっかけづくり

※自己評価【B】

【理由】

健康教室に参加された方々の一定の評価をいただいたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、教室参加者以外の地域の方に、プレイルームを開放し、ボディスパイダー等の活用ができなかった点については、今後の課題とする。

令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	小諸ふるさと遺産認定事業
事業主体 (連絡先)	小諸市 (小諸市教育委員会 文化財・生涯学習課 文化財・生涯学習係 電話 0267-22-1700)
事業区分	(1) 教育、文化・スポーツの振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	551,390 円 (うち支援金: 441,000 円)

事業内容

後世に伝え残していきたい「小諸ふるさと遺産」を市が認定。今年度認定分の認定証の交付とこれまで認定した全ての遺産を「ふるさと遺産認定集」として冊子にまとめ各所へ配布した。

- ・応募期間: 4月1日(水)～9月30日(水)
- ・応募数 43件
- ・認定数 41件
- ・認定集発行部数 1,500部



【 認定証交付の様子 】

事業効果

- ①支援金を活用して、「小諸ふるさと遺産」認定プレートを交付、設置したことにより、「小諸ふるさと遺産」の存在をPRできた。
- ②「小諸ふるさと遺産」認定集の冊子を作成し、各所へ配布したことにより、市内小・中学生から観光客まで多くの人に「小諸ふるさと遺産」を知ってもらうことができた。

【目標・ねらい】

- ①文化的遺産の掘り起し
- ②文化的遺産の市民認知度を向上。未来につなげる。
- ③文化的遺産を使った地域振興

今後の取り組み

- ・認定された「小諸ふるさと遺産」の活用について、こもろ観光局との連携を引き続き図っていく。
- ・「小諸ふるさと遺産」保存・活用のモデル地区を設定し学習活動をすることで、小諸市全域で「小諸ふるさと遺産」を大切に守り伝え、地域の活性化に役立てる仕組みを醸成していく。

※自己評価【 B 】

【理由】

「小諸ふるさと遺産」として目標の39件を上回る41件を認定することができた。

令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「みよた学」刊行事業
事業主体 (連絡先)	御代田町 (教育委員会 電話0267-32-9100)
事業区分	(3)教育、文化の振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,027,061 円 (うち支援金: 821,000 円)

事業内容

ふるさと御代田を、小中学生を含め、御代田全町民に知っていただくための「みよた学」刊行事業内容は、御代田町の自然・歴史・文化(民俗・教育)・産業(農工業)である。

A4 44頁 オールカラーの冊子「みよた学」を6500部刊行し、町内の小中学生、学校関係者、各戸に配布した。

刊行時、御代田中学校3年生に同内容を元に、茂木教育長が「みよた学」講座を対面で行った。

また、刊行までに時間を要し、またコロナ禍もあって、対面講座が出来ないため、オンラインで「みよた学」講座を7回実施した。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①「みよた学」は、御代田町で初めての平易な郷土誌として刊行された。
- ②御代田町の自然・歴史・文化(民俗・教育)・産業(農工業)を、ダイジェストにオールカラーで紹介できた。
- ③上記の内容において、郷土御代田を知り、愛着を深めることが可能となった。
- ④町内の小中学生、学校関係者、各戸に配布したため、これまで関心がなかった層も含め、より多くの活用が見込まれる。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

「みよた学」は御代田町で初めての平易な郷土誌となった。ただ、コロナ禍および刊行に時間を要したことで、対面講座が開催できなかった。図書は全町民に行き渡ったので、今後継続して「みよた学」講座を行い、町民および児童生徒にふるさと御代田を理解していただく必要がある。



【中学生へのみよた学講座】

【目標・ねらい】

- ① 従来無かった郷土誌の刊行
- ② 自然・歴史・文化等の紹介
- ③ 郷土を知り、愛着を深める
- ④ 小中学生・全町民への活用

※自己評価【 C 】

【理由】

従来無かった郷土誌の刊行が果たせた。ただ、コロナ禍の問題で対面講座が1度しか出来なかった。また、編集に難航し刊行に時間を要したことが課題である。

令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	歴史的建物の保存再生に向けた「城下町フェスタ」の実施
事業主体 (連絡先)	城下町にぎわい協議会 小諸市本町3-1-4 E-mail:festa@t-garden.org
事業区分	(3) 教育及び文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	708,238 円 (うち支援金: 561,000 円)

事業内容

小諸城下町の古い建物を活かすために、公共施設や空き家を借りて2日間のギャラリーをオープンし、それをめぐり歩いてもらうイベントを開催。(今年で9回目)今回は7つの古い建物を会場として借り、「再生」をテーマに、着物(古布)、家具などの再生品の展示販売を行った。それに向けて、使われていなかった「旧ホテル小諸」の蔵を借り、若い世代の参加者を公募し、みんなで掃除・ディスプレイして、「ハイカラコモロポップアップショップ」として着物の着付けや着物を再生した。また、長野大学による城下町クイズラリーや特設カフェなどがオープンした。2日間で、約800人の来場者があった。

事業効果

- ① 旧ホテル小諸の蔵を掃除し、使いたい人を集め、ギャラリー継ぐ蔵(TSUGURA)として継続していくこととなった。
- ② 同時に公開した旧ホテル小諸の建物についても、市民が注目してもらうことができた。
- ③ 多くのマスコミに取り上げられたので、小諸城下町の古い町並みや建物について広く知っていただくことができた。

今後の取り組み

今後、継ぐ蔵(TSUGURA)に関わりたいというメンバーと、城下町小諸の着物文化、再生文化をPRするために、「着物を着る日」イベント(仮称)を行っていこうと話合った。また、歴史ある建物が空き家(物置)のままになっているところなどには、所有者にお声をかけて、中の片付けや掃除の手伝いをして、建物を店や宿に貸したり売ったりしてもらえるようにできるとよいと話合った。使わないけれど捨てられない古いものについては、継ぐ蔵でいただいで活用させていただくという流れを作っていきたいと考えている。



【古い蔵を再生】

【目標・ねらい】

- ① 「城下町フェスタ」の実施
- ② 旧ホテル小諸の蔵の再生活用
- ③ イベントを通して、小諸の古い町並みの魅力をPRする

※自己評価【A】

【理由】

新型コロナウイルスで、ほとんどすべての行事が中止となる中、感染防止に気をつけて力を合わせて城下町フェスタを開催できた。旧ホテル小諸の蔵の再生活用も成功し、今後の活動につながった。

令和2年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ふるさとの民話を紙芝居で楽しもう！事業
事業主体 (連絡先)	特定非営利活動法人本途人舎 小諸市相生町3-3-3 0267-22-1019 (市立小諸図書館)
事業区分	(3) 教育、文化の振興に関する事業 (1) 地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	560,244円 (うち支援金: 448,000円)

事業内容

1. 紙芝居制作

東信地域の民話を題材とし、紙芝居を地域の高校生と共に制作する。民話を紙芝居用に社員が再話し、絵を高校生に描いてもらった。

2. 紙芝居読み聞かせ

紙芝居を市立小諸図書館のおはなし会で披露

令和3年2月28日

市立小諸図書館「すみれちゃんおはなし会」

その他 児童館でのおはなし会で読み聞かせ



【目標・ねらい】

- ①地域の民話・伝説の再確認と気軽に民話に触れることができるツールの製作
- ②次世代の伝承者育成
- ③民話に関心を持つ人の増加

事業効果

①支援金を活用して「紙芝居」という形で、民話を題材に作品を制作することができた。紙芝居は、保育園、学校現場等によく活用されるので、親しまれ活用されると思う。また図書館では貸出も行う為、各家庭で地元の民話を愉しめると思う。

②高校に制作を呼びかけ、岩村田高校ボランティア班8名の協力をいただき、はじめて地域の民話に触れてもらうことができた。小学校でも積極的に地元の民話に取り組んでいる学校もあるので、紙芝居をツールとして関心をもつ子どもたちが増えると思われる。

③広報等を通しての反応も良く、関心を持って本を手にとってもらうことが増えたように思う。

※自己評価【 A 】

【理由】

- ・コロナ禍で出来ないことも多かったが、完成した紙芝居は完成度が高く、たいへん好評であった。
- ・高校生と取り組んだこともあり、マスコミ等に関心を持ってもらったので、より幅広くさまざまな人に民話を知ってもらうことができた。

今後の取り組み

今回制作した紙芝居を積極的に活用し、保育園、小学校、図書館等での読み聞かせやイベントに使っていく。また、様々な分野の人に関わってもらいながら、他の民話等についても活用しやすいツールを工夫し、制作し、地元の民話の普及を図る。さまざまな人に関わってもらうことで、関心を持つ人を増やし、次世代への継承に繋げていく。